

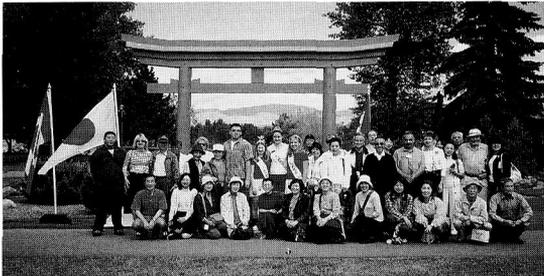
UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内
電話 0774-22-3141 (内線2057) FAX 20-8776
E-mail BCH04550@nifty.com ホームページ <http://homepage3.nifty.com/uifa/>

第 39 号

平成16年(2004年) 4月



リバーサイドパークの宇治公園で(平成14年度公式訪問団)

16年度宇治市国際交流関係予算から

カムループス市へ公式訪問団を派遣

宇治市の平成十六年度当初予算案が、三月十日、宇治市議会三月定例議会で可決されました。この中から、国際交流事業関係の内容をお知らせします。

カムループス市関係

【公式訪問団の派遣】
昨年十一月に公式訪問団が来訪されたカムループス市へ、宇治市からの公式訪問団が派遣されます。

公式訪問団は、行政や議会関係者による行政訪問団と、

当協会が公募する一般参加者による市民訪問団で構成。前回は、十四年六月から九日間の日程で派遣されています。

十六年度市民訪問団の概要や団員募集は、四月に宇治市政だよりでお知らせできる予定です。

カムループス市へ行って交流してみたいとお考えの皆さんは、お見逃しのないように。

【中学生訪問団の派遣】

平成四年度から毎年、市内在住の中学生十人がカムループス市に派遣されており、十六年度も実施されます。

例年は八月中旬～下旬の八日間実施。カムループス市でのホームステイと、カナディアンロッキー見学が主です。

中学生時代から国際感覚や英語力を磨ききっかけにと、毎年多数の応募があります。

募集の際は、市政だよりに掲載されるほか、宇治市立中学校では、学校を通じてもお知らせがある予定です。

【カリブ大学留学生派遣】

カムループス市にあるカリブ大学が設けている奨学制度の適用を受けての、同大学への一学期(4カ月間)の留学で、宇治市の推薦が必要。

その留学期間中の学費が免除。ホームステイが原則で、生活費はじめ本代・教材費などは自己負担です。

宇治市の推薦を受けられるのは、毎年二人。例年十二月ころの市政だより募集記事が掲載されます。

咸陽市関係

【公式訪問団の来訪】

十六年度には、咸陽市からの公式訪問団を迎え入れる予定です。

友好都市からの公式訪問団

をお迎えした際には、当協会主催でも歓迎行事を実施していますので、会員の皆様のご協力をお願いします。
来訪の日程は未定。今後、UIFAニュースでお知らせする予定です。

ヌワラエリヤ市関係

【児童絵画展の開催】

宇治市では、ヌワラエリヤ市から提供された、同市を紹介する児童絵画や写真などを展示する予定です。

これは、交流が中断していた両市市民に、改めて相手市を紹介しようとする取り組みで、宇治市役所はじめ、市内公共施設で順次展示していきたいとのこと。

日程は市政だよりに掲載される予定です。ぜひご覧にお越しください。

友好都市への交流訪問 希望団体は連絡を

当協会では友好都市を交流訪問される協会加盟団体に、補助金を交付しています。希望される団体は計画段階から早めに、協会事務局までご連絡ください。お問い合わせも受け付けています。

15年度カリブ大学市民留学生レポート

カナダ文化と温かい心に触れた日々

カムループス市にあるカリブ大学に、宇治市
留学生として、昨年五月から留学して帰国された
お二人に、体験記を寄稿していただきました。

カリブ大学留学体験記

永田 嘉奈子

去年五月から十二月までの
留学生活では異文化に触れ、
沢山の体験をさせていただきました。
素晴らしい経験となりました。
カムループス市は広々とし
ていて、美しい自然に溢れ、
静かな街というのが第一印象
でした。知り合ったカムルー



クリスマスの集いで
(向かって右から2人目が永田さん)

プスの人たちは、親切な方ば
かりで、興味深く宇治の話に
耳を傾け、私にカムループス
市についていろいろと紹介し
てくださいました。
こんな交わりを通して、皆
さんと親しくなれた事を本当
に心から嬉しく思います。

* * *

ホームステイの思い出

八カ月間の滞在は、ずっと
ホームステイでした。ホスト
ファミリーは、お母さんと娘
さんの二人暮らし。私は地下
にある広い部屋を貸してい
た。ゆったりと過ごす事が
できました。

休日には娘さんと一緒に犬と
散歩に出かけたり、買い物に
行ったり、ホストマザーに夕
飯のレシピを教えていただ

たりと、とても充実した生活
を送ることができました。
夕飯後のお茶の時間は、お
母さんと娘さんと理解し合う
ために不可欠の時間でした。

おかげで滞在中はホストファ
ミリーと何ら不愉快な事も起
こらず、自宅にいるように寛
がる居場所となりました。

初めてのホームステイ経験
でしたが、学んだ事は沢山あ
ります。違う言語や文化を持
つ人々が共生するためには、
互いを尊重しあい、違った部
分を認め合い理解する事が大
切だと思いました。

* * *

肌で触れたカナダ文化

滞在中は、カナダの文化に
触れようと、いろいろな行事
に参加しました。大学の集い
でハイキングに行き、カナダ
の大自然も満喫しました。
そうした中で、最も印象に
残ったのはパウワウでした。

パウワウは、先住民の文化
と伝統を回復するために一九
八〇年に始まった、三日にわ
たって行われるイベントです。

大勢の先住民が、凄まじい
迫力でダンスや歌、ドラムを
披露し、伝統的な服装はカラ
フルでとても素敵でした。

また、ホストマザーに、ミ
スカムループスコンテストに
連れて行っていただきました。

セスカムループスの三人は、
とても美しく聡明な女性で、
翌日彼女たちにお会いしまし
たが、宇治の事をいろいろと
ご存じで、両市の交流を深め
るために努力したいと仰って
いました。別れる時には一緒
に記念写真を撮ることができ
嬉しかったです。

本物のクリスマスを体験

最も感動したのは、カナダ
で、本物のクリスマスを体験
した事です。十二月に入ると、
街中にクリスマス飾りが置
かれ、クリスマスの雰囲気
が溢れてきます。

ホストマザーが所属するロー
タリークラブのクリスマスパー
ティーでは、皆とクリスマス
ソングを歌ったりして、楽し



カラフルでとても印象的なパウワウ

い一時を過ごさせていただき
ました。二十五日の朝、ホス
トファミリーと、クリスマス
ツリーの前に置いてある、綺
麗に包んだプレゼントを開け
るのも楽しかったです。

* * *

素晴らしいチャンスに

感謝

ホストファミリーをはじめ、
カムループス市で知り合った
方々と一緒に過ごした日々は
大切な思い出になりました。
これからも皆さんとのコン
タクトを絶やさないよう、大
切にしたいと思っています。
カナダの文化に直接触れ、
留学生活を経験できたことは、
私にとってかけがえのない宝
物です。この素晴らしいチャ
ンスが与えられたことに感謝
すると同時に、これからは留

学

学経験を生かし、宇治市で行われる国際交流活動に参加し

数えきれない思い出あふれる留学生生活

森井玲沙

て、微力ながらもお手伝いできたらと思っています。

豊かな自然に囲まれたカナダ、カムループスでの生活は私にとって憧れでした。

しかし、長期留学は今回が初めて。カムループスに着くまでの間、私は期待よりも不安で胸がいっぱいでした。

カムループス空港に到着すると、カリブ大学の方と、ピンのバラの花束を持った女性「Hello! Welcome to Kamloops!」と、近づいてこられました。これが私とホストマザーの出会いでした。

ホストマザーの笑顔とピンのバラが、私の不安を一瞬



キャンパス仲間と一緒に
(向かって左から2人目が森井さん)

にして消してくれました。

☆ ☆ ☆

宇治は良く知ってるよ!

私のホストファミリーはホストマザー、私と同じ歳の娘さん、娘さんの親友とそのボーイフレンドの四人でした。

ホストマザーの趣味がスキーやアイスホッケー観戦、キャンプなどアクティブなものということもあり、家の中は家族というよりは、友達というような雰囲気でした。

そして、家族全員に友達が多く、家にもよく友達が来ていて、初めの一カ月は「Nice to meet you. I came from [U]」とあいさつをする、「宇治はよく知っているよ!」と言っていたんだけどが日課となっていました。

☆ ☆ ☆

周りの心配りで

ストレスを発散

大学では課題やテスト、プレゼンテーションに追われる日々でした。

授業では、プレゼンテーショ



宇治市中学生訪問団のお世話もしました

ンやグループで行う課題も多く、朝早くから夜遅くまで学校に残って、クラスメイトと課題をした日もありました。

その中で、自分の言いたいことがはっきり言えない、言語の壁、文化の壁を感じた時期もありました。

しかし、友人たちが食事やパーティーに誘ってくれ、ホストマザーは休日に私が勉強していると「玲沙は勉強しすぎよ! 休日だから外で遊びなさい!」と、追い出すように私が外に出かけるように仕向けて、溜まっていた私のストレスを取り払ってくれました。

☆ ☆ ☆

ボランティア体験で

つかんだもの

二カ月目、大学にも生活に

も慣れてきた頃、ホストマザーの影響もあって、大学でボランティアに参加することになりました。

大学には四十三カ国、約七百人の留学生がおり、殆どの留学生が勉強に追われ、カナダやカムループスのことを知らずに学生生活が終わってしまふケースも多いそうです。

ボランティアの内容は、そうした留学生向けに、誰でも気軽に参加できるイベントを考え、実行するもので、バーベキュー、ビーチバレー、乗馬、アイスホッケー観戦やクリスマスパーティーなど様々でした。

特に私が参加できる最後のイベントとなったクリスマスパーティーは、二カ月前から



カナダのアウトドアライフも楽しみました

準備が始まり、授業の合間に飾り付けやカードの制作、会議に参加したりで、時間との戦いでした。

その努力のおかげで、クリスマスパーティーは大成功に終わり、ボランティア仲間とも喜びを分かち合いました。

このボランティアは、言われたことや決められたことだけをやるのではなく、自分たちでゼロからスタートし、仲間と協力し、自分がフィルターとなって何かを作り出すという、今まで日本でも経験がなかったもので、本当にとっても貴重な体験となりました。

☆ ☆ ☆

皆さん、ありがとう

このカムループス、カリブ大学への留学では、英語や知識が身に付いたのはもちろんですが、カナダや他の国々の多くの友人に出会えたことや、異文化の中に自分の身を置くことによって、新しい見方や考え方に触れることができたことで、本当の意味での贅沢ができたと思います。

このような素晴らしい機会を与えてくださった多くの関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

員報告
活動

市内在住外国人との交流を進める

宇治国際交流クラブ会長 小永井 宏子

宇治国際交流クラブは、平成三年に宇治市で開かれた全園植樹祭をきっかけに集まった、通訳ボランティアが中心となって誕生。毎月曜日、英会話を楽しみながら勉強しており、今では、五クラスに増えています。

また、市内在住外国人が少しでも快適に暮らせるようにと、日本語学習のお手伝いをし、宇治市民として恥じない知識を持ちたいと、観光スポットや歴史を学ぶ観光ボランティアガイド勉強会を開くなど、十年あまりで活動も充実し、会員数も約百五十人と増えました。

茶香服、外国人を案内してのスタンプリーパー参加、お国の料理を習い、一緒に食べながら交流する世界の料理教室なども好評です。市や協会の国際交流事業にも、友好都市訪問団との交流や通訳などでお手伝いをしています。

思えば本当に多くの国の、沢山の人の出会いがあり、お世話するつもりが逆に教えられることも多々ありました。

日本とはまったく違う常識。すべてには表と裏があり、どちらの間違ってはいないのだと知らされるなど、そうした経験が私たちを成長させてくれたように思います。

世界の文化を知り

日本の文化を伝える

今年一月二十五日(日)には、宇治公民館で、「世界の文化交流会」を開催しました。

このイベントは、主に市内在住の外国人を招き、互いの国の文化交流をはかるもので、毎年開催しています。

今年もオランダ、中国、韓国、ドイツ、アメリカ、ネパール、メキシコ、スイス、フランスなど四十二人の外国人が参加。会員・一般参加あわせて、百三十名あまりの大きな交流会となりました。

そのうち五カ国の方には、お国の文化や食生活、観光地などを紹介するコーナーを出していただきました。

また、外国人にお茶、生け花、折紙、書道、おもちゃ、着付けなどを紹介し、日頃あまり体験できない日本文化を楽しんでいただきました。邦

楽やハーモニカの演奏、バレエなども会に花を添えました。彼らの中には宇治の事がよく分からない、宇治市民と話す機会がないといった人が意外に多く、この会は参加者間国際交流の場となりました。私たちは、これからもこうした場を企画し、提供していきたいと思っています。



市内在住外国人に折り紙を紹介

ご利用ください
国際理解推進事業補助金

◎ 要件

- ① 会員が、会員または市民を対象に、国際理解を高めるため、国内で行う事業。
- ② 事業は、広く会員または市民が参加できる公共施設などで実施すること。
- ③ 事業経費には、主催する会員の負担があること。
- ④ 営利目的行為、金品の寄付や援助などの強要、特定の政治活動や団体活動に利する行為をしないこと。

◎ 補助金額

- ① 事業費総額から収入総額を差し引いた額の2分の1以内の額で、1事業3万円が限度。
- ② 補助は、1会員年間1回。

◎ 申請

- ① 必ず、事業実施前に、関係書類を添えて、補助金交付申請書を協会に提出。
- ② 事業実施後に、関係書類を添えて、事業終了報告書を協会に提出。
- ③ 補助金は、事業終了報告書が提出されて補助対象事業費が確定してから交付。

◎ 問い合わせ

協会事務局 (宇治市企画管理部秘書課内 内線2057) へ

感雑観雑

先日、宇治国際交流クラブの有志で作っている「フィリピンの子供たちへ贈り物を送る会」の荷物発送作業を終えた。

この活動は、宇治市制五十周年記念市民企画事業として、宇治市の女性グループUPWが開いたワークショップの中で、外国の貧しい子供たちの置かれている厳しい現状が報告されたことに始まった。

今回、JICAへ贈り物の中身を報告するにあたって、二十個ほどのダンボールの中を調べるにつれて、私たちは本当に現地の人々が必要としているものを送っているのかと、ふと不安になった。

高い送料をかけて送るのだから、できるだけ彼らが喜ぶもの、彼らが今必要としているものを送ってあげたい。

この活動が細々とでも長く続くためには、より多くの人々の参加が必要である。

そして、物品の寄付とともに、それらを送る費用の一部として、いくらかの現金を添えていただければ、この善意の活動は、更に未来へとつながっていくだろう。(伊勢村)